「もとはこちら」の お話し

No.76　今月のテーマ　諦めなければ、夢はかなう

講義中の平井先生

目標を設定し、やる気さえあれば

道 自ずから開ける

（平井謙次作　日めくりカレンダーより ）

北原ゆり筆

素晴らしいニュースが飛び込んできました。

あのプロスキーヤーで冒険家の三浦雄一郎さんが、８，８４８メートルという世界最高峰のエベレスト登頂に成功したのです。

彼は過去に二度、七十歳と七五歳の時にも挑戦し、成功していましたが、八十歳になっての今回の成功によって、これまでのネパール人の七六歳での登頂という記録を大きく塗り替え、世界最高齢での記録保持者となりました。

そしてこのような人類未聞の大偉業を成し遂げた彼は尚、「今度は直滑降でヒマラヤから下りてきたい」という、これまた大きな夢を私達に語ってくれました。

早くも彼は、その夢を果たす為の挑戦を始めているのではないかと思います。ですから既に彼の心の中では、エベレストの急斜面を滑降している自分の姿が、生き生きと描かれている事でしょう。

今回の大成功を伝えるある新聞のコラム欄の中に、「富士山に登ろうと思った人だけが、富士山に登る」という言葉が載っていました。確かに、何かのついでに富士山に登ってきたという人はいないだろうと思います。

元々、何かのついでに出来るような事ならば、それを私達は「夢」とは呼ばないはずです。

通常では手が届かない程の大きな夢を持ち、その夢を現実の物とする為のたゆまぬ努力を黙々と重ねることが出来る人のみが、その夢を実現化させる事が出来るのです。成功した暁には、それまでの努力や苦労の大きさに比例して、その喜びも感激も大きくなる筈です。ですから大した苦労もなく、何となく出来てしまったという様な場合には、心の底から湧きあがって来るような大きな悦びや感慨も、そこにはない筈です。

私達一人ひとりにも、夢があります。
すぐにでも叶える事が出来るような小さなものもあれば、とてもじゃないが実現できそうにもないという様な、大きな、大きな夢もあるでしょう。
また実現出来ると思って始めてはみたものの、途中で思わぬ事態が発生し、挫折しそうになったという様な経験をお持ちの方もいる事でしょう。
夢は私達が諦めたその瞬間に、単なる絵空事と化し、形を結ぶ事はなくなります。
しかし決してくじけず諦めずに挑戦し続け、とうとう夢を実現した人もいます。
平井先生がその方のお話しされたのは、今からざっと二十年以上も前の事です。

～～～

しましょう」という人が現れました。

また、故人やその奥さんに随分お世話になったという地元の青年達が、惜しみない協力を申し出てくれました。そして、出版のための実行委員会なるものを作ろうという話までもが出てきました。

その上、今回の出版の事だけでなく、一時は閉鎖の方向にあったその道場も、半公共的な施設として存続させるという事にまで話は及び、そのためにも今まさに契約しようとしている遺稿集は、故人と奥さんの共著という形にする事など、話は次から次へと前向きに進んでいきました。

どんな結果でも、それは素直に受け入れる

さて、私達に与えられる条件というのは、それがどんな形のものであっても、それはある事の当然の結果として出てきた事ばかりです。

ですから、その結果が自分の気に入る事であれ、そうでない場合であれ、それに対してとやかく論評する必要は全くない筈です。私達は、結果というものに対しては、ただただ素直に謙虚に無条件に受け入れなければならないし、受け入れるしか、道はないのです。

例えばお通じという事を例にとって言えば、便秘とか下痢という症状になった場合、そういう今の姿、今の状態を、私達は良いとか悪いとかの評価は一切せず、ただ素直に受け入れるしかない筈です。受け入れた上で、自分の前日の生活を振り返ってみるのです。

それから、では今はどうすれば良いかを考え、その考えに基づいて対処をした上で、改めてこれからの生活を考えるという事です。

あらゆる結果には必ずそれに見合った原因というものがあります。

ですからそれがどんな結果であっても、それをこれからの生き方の「方向付けの為の教材」として活かして行くという事です。

要は、現状をしっかりと認識して受け止め、そこからどう動くかという事を考えるのです。

出来ると信じ、エネルギーをプラスに使う

エネルギーそのものには、元々、プラスもマイナスもありません。しかし人間はそのエネルギーを、プラスに使う事も出来れば、またマイナスにも使う事が出来るのです。

要は使い方次第で、プラスにもなればマイナスにもなるという事です。

エネルギーをプラスに使えば、物事は成功し、マイナスに使えば失敗するのです。

ではどの様にすれば成功するかといえば、全身全霊でその事を想い、そしてすでに成功しているその姿を心の中でありありと想い描くのです。何度も何度も、繰り返し想い描き続けるのです。

但し、必死の形相で息を詰めて能動的に想い描くというのでは駄目です。力を抜いて、受動的に淡々と想い描き続

けるのです。自分は何をしたいのか、したい事がぶれないようにしっかりと確認し、その上で、今はどういう状態にあるのかという事を常に認識し、その差を埋めるにはこれからどうすれば良いのかを具体的に考え、それ実行していけば、その想いは必ず遂げられます。

実行していくその中でまた条件が変わってくれば、その変わった条件の中で、再び現状認識をし、新しい方法を考えていくのです。いつ、いかなる場合であっても、唯一決して変わる事がないのは、心の中に想い描くその結果の姿だけです。いわば、登頂に成功している輝かしい自分の姿です。

人間というのは、決して出来ないという事は、初めから考えもしないものです。自分がそれを考えるという事は、出来るからなのです。

～～～